



手のひらを太陽に

Season3

2024/10/25

No.6

3つの小部屋（保健室・給食室・事務室）より生徒の皆さんへ

（文責 守谷）

石川県は、元日に能登半島地震があり、夏には記録的な豪雨も直撃しました。今もなお、不明者の捜索が行われています。道路は崖崩れや地滑りなどで土砂が流れ、全面復旧は遠く、多くの方の避難生活が続いており、困難な状況は改善されません。



小部屋①：保健室（矢吹先生）

💧 水は命の源 💧

災害時に必要な水の量について考えてみましょう。

飲用水・・・1人あたり1日3ℓは必要 最低でも3日分（=2ℓペットボトル約5本）

生活用水・・・あればあるほど良い。（サンドウィッチマンは福島県にトイレトレーラーを寄付）

お勧め・賞味期限の長い2ℓペットボトルを購入し、1年間など期限を決めて保管する。

～期限が迫ったら飲用・生活用水として利用し、買い替えましょう。～

また、災害時の節水に活躍する便利アイテムと言われているのが「キッチンラップ」

<キッチンラップの災害時の使い方>

食器に敷いて食事をする ⇒ 食器を洗わなくてよい。

手に巻き付けて手袋代わりにする ⇒ 手が汚れないので、手を洗わなくてよい。

防災グッズの中に、キッチンラップを入れておくと、いざという時に役立ちます。

もしも、に備えて、今できることは何か「自分と周囲」の心まで想像し、考えてみましょう。

今回は

想像

白中祭を
成功させた
皆さんの
背中には
きっと
「想像の翼」
育っています
さあ、次へ

小部屋②：給食室（深谷先生）

「食べることは」、「命を繋げること」

今回は、支援物資などを使い、被災地で提供されている食事のメニューを紹介します。

（1月、厳しい寒さの能登で被災者の皆さんが受け取ったメニューです。）

●<アルファー化米、炊き出し、ヤクルト> ●<災害用パン、クラムチャウダー、ヤクルト>

●<アルファー化米、カレールー、常温保存牛乳>・・・このメニューが、毎日毎日続くのですよ・・・



さて、11月1日に行われる「芋煮会」は、防災訓練の意味も含まれます。薪を使い、カレーや豚汁を作りますよ。そして今回は、被災地で使われた「アルファー化米」をみんなで試食します。体育大会あとの楽しい芋煮会ですが、もし自分が自然災害にあってしまったら・・・寒い時期に冷たい非常食を食べるしかない日々が続いたら・・・その時の「心身のしんどさ」はどんなだろう、など「自分事」として想像、シュミレーションしてほしいと思います。

小部屋③：事務室（守谷さん） みんなの笑顔を想像して、これからも「笑顔満祭」に

たくさんのニュースが流れていますね。月曜日には衆院選結果が出そろいます。皆さんの「生徒会選挙」のように「明確で誰にでも届く」公約を果たせる人たちが選ばれたのでしょうか。その方たちは「公平」に「着実に」「まっすぐに」「強きが弱きを助ける日本」を形作ってくれるのでしょうか。「闇ナントカ」なんてコトバが普通に流れる社会がおかしい、ってこと、能登の中学生が災害で亡くなったこと、日本被団協がノーベル平和賞を受賞したこと、安達太良山が秋色に色づいたこと、青い空はウクライナにも続いていること、上りゆく満月がとても美しいこと、お家で過ごす時間が幸せなこと、・・・「五感」を磨いて、自分を大切に他人も大切にできる、そんな白中生に。

想像することを訓練し、「良きもの」を与えたり受け取ったりできる自分づくり、秋の陽射しでちょっと「深思」を。